

このシートは、領域・教科を合わせた指導の授業の担当者で、授業の計画について話し合う時に使用するものです。

そこで、領域・教科を合わせた指導をよりよい授業にしていくためには、授業の計画の段階で共に授業を行う担当者と話し合い、共通理解することが必要です。

この授業作りシート作成に当たっては、別冊の領域・教科を合わせた指導の充実のための資料「理解編」を参考にしてください。この「理解編」は、領域・教科を合わせた指導を充実するための視点について、より具体的な内容から説明していますので、理解を深めることができ、授業に取り入れることができます。

1

## 1 単元名を決める

領域・教科を合わせた指導は、内容を児童生徒の実態に応じて教師が設定します。そのため、教科別の授業のように「この学年では、△△の単元で、□□の勉強をする」と決まったものはありません。そこで、どんな学習なのかを名前を聞いただけで分かるように簡潔明瞭に単元名を表すことが大切です。

児童生徒は、どんな活動が分かることで、学習を楽しみにしたり、やってみたいとわくわくしたり、どんな活動を行うのか見通しがもてたりします。そのことで意欲が増し、進んで活動することにつながります。

単元名を決めるに当たって大切なことを以下に示します。

- 聞いて分かる言葉で
- 言いやすい言葉で
- 活動内容がイメージできる言葉で
- 年齢相応の表現で

関連して

単元名を決める前に学習内容を設定するという大切な作業があります。

年間指導計画を弾力的に運用しながら、児童生徒の興味・関心や生活を充実させるために必要な学習内容を設定していきます。

このことは、「理解編」の p3, p6, p30 を参考にしてください。そして、取り組む活動に興味・関心をふくらませることができるような単元名とすることで、児童生徒が進んで活動に取り組むことができるようにしましょう。

Figure 1: Example of a form for recording the results of a lesson. The form is divided into several sections. Section 1, '単元名' (Unit Name), is highlighted with a red box. Section 2, '単元の目標' (Learning Objectives), is a large text area. Section 3, '目標計画' (Goal Plan), is a table with columns for '単元' (Unit), '学習活動の目標' (Learning Activity Objectives), and '評価' (Evaluation). Section 4, '学習活動の流れ' (Flow of Learning Activities), is a table with columns for '学習活動' (Learning Activities) and '評価' (Evaluation). Section 5, '学習活動の流れ' (Flow of Learning Activities), is a table with columns for '学習活動' (Learning Activities) and '評価' (Evaluation). Section 6, '学習活動の流れ' (Flow of Learning Activities), is a table with columns for '学習活動' (Learning Activities) and '評価' (Evaluation).

このページの  
手順は、「授業づ  
くりシート」の赤  
い枠で囲まれた  
欄に記入します。

## 具体例

**言いやすい言葉で**

「岩手県立博物館に恐竜を見に行こう」という単元名の学習。毎日学習していくうちに子ども達は、この学習のことを「“恐竜を見に行こう”の勉強やろうよ」と言うようになりました。児童生徒が学習内容をイメージできるようにしながらも、言いやすい名前にするのが大切です。児童生徒が、単元名をきめてもいいでしょう。

**イメージできる言葉で**

「校外学習に行こう」では、  
どんな活動をするのかイメージがもてません。そこで  
「電車に乗ろう」  
「ボウリングに行こう」  
「レストランに行こう」  
などとすることでイメージ  
がもちやすくなります。

## 年齢相応の表現で

中学部1年生の作業学習で「金づちトントンをしよう」では、年齢的に幼いイメージがあります。

「花台作り」  
「金づちで作ろう」  
などとすることで年齢相応  
の単元名になります。

## 2 授業の目標を設定する

授業の目標とは、集団全体としての目標を設定していきます。この授業の目標は、生活年齢にあったものを設定していきます。それぞれの学年で授業の目標が生活年齢を意識し年齢相応に設定されることで前の学年や次の学年と目標が自然につながります。そして、卒業後の自立した社会生活へとつなげていきます。

授業の目標を設定するに当たって大切なことを以下に示します。

- 社会で求められている年齢に相応した目標
- 実際の生活での活用場面を具体的に考えた目標

### 関連して

授業を行う集団は、児童生徒の知的発達や障がいの状態は、一人一人異なります。そこで、領域・教科を合わせた指導においては、授業における集団全体の目標に基づき、児童生徒一人一人の実態に応じた個別の目標を設定することも必要です。年齢に相応した授業の目標に基づき、個に応じた指導内容を設定し、一人一人のその年齢での課題を達成していきます。

そこで、領域・教科を合わせた指導では、授業の目標に基づいた個に応じた目標の設定の両方が必要となります。

このことは、「理解編」の p9, p10, p19 を参考にしてください。特別支援学校では、個別的教育支援計画や個別の指導計画を設定し、児童生徒一人一人に応じた指導を行っています。これを活用し、領域・教科を合わせた指導の授業の目標や指導内容を児童生徒一人一人に合わせていくことが必要です。

単元名	単元目標	単元評価
1. 単元名	単元目標	単元評価
2. 単元目標	単元目標	単元評価
3. 単元評価	単元評価	単元評価

このページの  
手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

## 具体例

### 年齢相応の目標

6年生が新1年生の入学を祝う会を計画することになりました。

この会を成功させるためには、一人一人のできる活動を責任をもって行うことが必要です。一人の力は小さなものですし、できないことが多いかもしれません。しかし、一人一人のよい面を生かし取り組んだことで最上級生としての役割を果たすことができます。そして、6年生に求められている役割を果たすことで年齢相応の気持ちを育てることができそうです。

### 活用場面を考えた目標

調理の学習を取り入れた場合を考えてみましょう。小学部低学年では、「お手伝い」、「お楽しみ」として実際の生活の中で活用していくことが考えられます。高等部になると「責任をもって行う家庭の仕事」、「就職先での仕事」ということを考えた目標にしていく必要があります。

同じ調理の学習でも年齢に応じて活用する場面を設定し、目標を具体的に設定することが大切です。

### 3 日程の計画を立てる

日程の計画とは、教師だけでなく、児童生徒が見通しをもって学習を進めていくことができるように立てることが大切です。

特別支援学校の児童生徒は、初めてのことが苦手だったり、できるようになるのに時間がかかったりする場合があります。

しかし、毎日、繰り返して行うことで、活動の流れや手順を覚えることができ、落ち着いて活動できるようになります。また、活動に慣れることで、定着することにもつながり、自信をもち、積極的に活動に参加できるようになります。したがって、日程の計画を立てる場合は、活動が定着するために必要な期間を設定しなければなりません。また、活動に慣れ、発展させるための期間も必要です。

日程計画を立てるに当たって大切なことを以下に示します。

- 活動の流れが分かり、見通しをもって取り組む
- 繰り返しの学習により、知識や技能を定着・向上させる
- 工夫をしたり、友だちと関わったりする等して、自分で積極的に活動する

#### 関連して

日程の計画を、上記の三つの点に留意しながら立案するだけでなく、児童生徒が学校に行くことや学習に取り組むことを楽しみにすることができるよう日程表を作成したり、カレンダーに活動内容を書き込んだりして、分かりやすく表示することが大切です。

日程の計画を設定については、「理解編」の p4, p5, p7, p11, p22 を参考にしてください。

このページの  
手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

### 具 体 例

#### 活動の流れが分かる

例えば、Aさんは、木工班の作業でヤスリがけの担当になりました。工程表を作り作業の流れを示し、その流れに従って継続して取り組んでいく計画にしたことによりうちに、自分の担当のヤスリがけの次の工程が分かり、自分で次の工程に材料を持って行き、依頼や報告をするようになりました。

#### 繰り返しの学習ができる

例えば、ボウリングの単元ではペットボトルでピンを作りました。作り方に慣れてくるとシールの貼り方やマジックで模様を描くことが上手になりました。

#### 自分で積極的に活動する

例えば、段ボールのそりで斜面を滑り降りる遊びの時間。毎日繰り返し遊んでいるうちに、友達と一緒に乗ったり、つなげたり、大きさを変えたりしながら、自分たちで工夫して遊びを発展させていくことができました。

## 4 活動内容の流れを決める

活動の流れは、分かりやすい活動の流れにすることと内容の吟味をすることが大切です。

特に見通しをもって活動できることを重視すると、一つの単元期間中に何度も活動の流れが変わらないように計画することが大切です。

領域・教科を合わせた指導は、生活の一連の流れの中で学習活動を進めるため、たくさんの内容を盛り込んでしまいがちです。しかし、何を学習の中心にするかを決め、学習内容を精選していく必要があります。

そして、活動がスムーズに運ぶように活動の流れや取り組む時間配分などを考えます。

また、授業の流れは、児童生徒が進んで活動に取り組めるかに大きく左右します。同じ流れで継続することで、教師の指示や助けがなくても自分で動けるようになっていきます。活動内容と流れを決める際は、次のような工夫をする必要があります。

活動の流れと内容を決めるに当たって大切なことを以下に示します。

- 中心とする活動を決め内容の精選をする。
- 活動がスムーズに運ぶように活動の組み合わせや取り組む時間配分などを考える。

### 関連して

単元から考えられる活動は様々あります。それを全て盛り込もうとすると活動が多くなりすぎて、学習に見通しがもちにくいものとなってしまいます。

そこで、学習に見通しをもてるよう、活動内容を把握し、児童生徒に合った活動することが大切です。このことは、「理解編」の [p6](#)、[p11](#)、[p12](#)、[p16](#)、[p21](#)、[p22](#)、[p30](#) を参考にしてください。

このページの手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

1. 単元名	2. 単元の目標
3. 目標計画 活動計画	4. 活動計画 活動計画

活動内容	時間	配属	準備等
1			
2			
3			
4			
5			
6			

## 具 体 例

### 見通し

毎日流れを同じにし、取り組んでいったとき、数日後には、教師の声かけや指示がなくとも次の活動の準備をすることができるようになっていきました。活動内容と流れを繰り返すことで、次に何をするか見通しがもてるようになっていきました。

### 内容の精選

宿泊学習での当日の活動を考えるとそれまでの事前学習で行いたいことはたくさんあります。洗面、風呂、食事、キャンプファイヤー、布団の上げ下ろし・・・

この中から、キャンプファイヤーと宿泊学習のしおり作りを中心となる活動内容としました。当日は、事前に準備や練習をしたキャンプファイヤーが盛り上がりました。活動の見通しは自分で作成したしおりを利用しました。

### 活動の組み合わせの工夫

例えば、作業は15分が限界という生徒。そこで、作業後すぐに自分の作った製品を販売するために出かけるようにしたら、集中して活動する時間が増えました。また、もっとたくさん作って販売に出かけたいと作業への目標を自分で設定するようにもなりました。



## 5 物や人の配置図を書く

児童生徒が、自分に必要な活動の手がかりをもとに自分で活動できる力を最大限に引き出すことが大切です。そのためには、以下のような事項において授業で必要な支援を考えることができます。

- ① 道具・教材の配置
- ② 個別的な環境支援（場の設定）
- ③ 個別に必要な教材・教具、補助具
- ④ 個に応じた教師の関わり

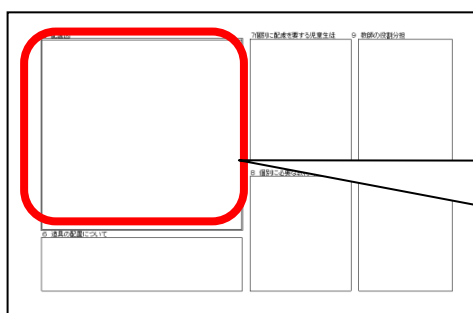
この支援が、効果的に行われるためには、実際の授業を想定しながら設定していくことが大切です。そのためには、配置図を基に想定していくことが有効になります。

物や人の配置図を書くに当たって大切なことを以下に示しました。

- 分かって動きやすく自然な活動となる物の配置（机、教材・教具など）
- 活動しやすい動線（児童生徒、教師）

### 関連して

配置図は、授業に1枚あればいいというものではありません。授業中に効率的に活動するために何度か道具や教材を置き換えたりすることがあるからです。必要があればその時々配置図を書き、教師間で環境についての共通理解を図る必要があります。このことは、「理解編」の p23, p24, p31 を参考にしてください。



このページの  
手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

## 具体例

### どこにあるか分かる

例えば、教材などについて、どこに何があるか分かったり自分で取りに行くことができます。

必要最小限の物でどこに何があるか全体を見通せる配置にすると、どこに行けばよいか分かり、自分から活動できるようになります。

### 動線の工夫

例えば、机の向きや物の置き場所を変えただけで、活動中に人と人がぶつからずすむようになります。また、最短距離での移動ができる配置をすることにより、作業の効率があがったり、一定方向に進むルールを作ることによってスムーズな活動につながったりします。配置図上で実際の授業をイメージしながら計画していくことで、授業がスムーズになっていきます。

### 教師の役割

使う順番に道具を並べることで、その順番を手がかりにして、教師が近くにいらなくても自分で活動を進められるようになることがあります。すると、一人でできたことで達成感が高まることにつながります。

教師は、児童生徒の活動が見える位置で必要な時に必要な支援を提供することが大切です。

## 6 道具や教材・教具等を配置する

道具や教材・教具等の配置は、児童生徒が把握しやすいようにしておくことが大切です。そうすることで、自分で活動する手がかりを見つけることができます。

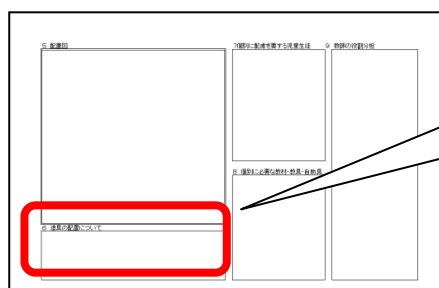
ここで注意しなければならないことは、取りに行くまでに、別のことが気になってしまったり、いっても自分で取り出せなかったりすることで、活動が滞ってしまわないようにすることです。

道具や教材・教具等を配置するに当たって大切なことを以下に示しました。

- どこに何があるか分かる
- どこで何をするか分かる
- 移動を遮るものをなくす
- 使いやすく効率よく配置する工夫をしているか（取り出しやすさ、整理整頓など）

### 関連して

児童生徒が活動するためには、活動にあったスペースが必要です。狭すぎても広すぎてもいけません。また、道具や教材は、必要最小限にしていくことが大切です。また、普段から教室の整理をし、どこに何を置いてあるのか分かりやすく提示することも大切です。このことは、「理解編」の p7, p23, p24 を参考にしてください。



このページの  
手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

## 具 体 例

### どこに何があるか分かる

引き出しに何が入っているか、絵や写真で提示すると分かりやすくなります。

材料を入れる箱などは、床に置くより、テーブルに置いた方がよく見え、分かります。

### どこで何をするか分かる

リレー競争をしたときのこと。走り終わったらいつも座るときに使っているブルーシートに座るようにすることで走り終わったら座るという活動がスムーズになりました。

### 移動を遮らない

必要な物を取りに行く人とできあがった物を持って来た人等他の人とぶつからないように、どこに何を置くか、机の配置や床のラインなどの工夫が大切です。

### 配置の工夫

使いたい道具を取りに行く途中で友達がやっている活動が気になって、取りに行くことを忘れてしまうこともあります。移動する途中に妨げになる刺激はないように配置することが大切です。

### 効率よく配置する

例えば、ピザ作りでの活動で、長テーブルに置かれた材料を順番に取って、生地に乗せていくことでピザが完成するようにしました。配置の工夫で、一人でできる活動になりました。

## 7 個別に必要な環境の支援を考える

道具や教材・教具等の配置を適切に行うことだけでは、十分に活動に参加できない児童生徒もいます。その場合は、個別に環境を整え、支援をさらにきめ細かなものに行うことが必要になります。

児童生徒は、場所を提示したり、活動の流れが示されたりしてもそれを自分の活動に必要な支援と分かるためには、使い方を理解し、自分にとって必要なことだと解することが必要です。

そのためには、どのようにするか児童生徒が分かるような手がかりを工夫していくことが大切です。そして、教師は、有効な支援にするために以下のように配慮することが必要です。

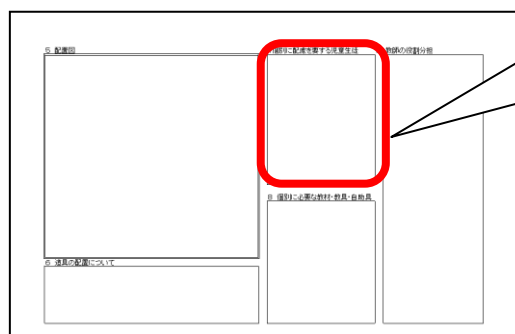
個別に必要な環境の支援を考えるに当たって大切なことを以下に示します。

- 手がかりに気付かせること
- 手がかりを基に確認しながら活動するよう促すこと

### 関連して

個に必要な環境の支援を提供するためには、その子ができる力を把握しておく必要があります。印が分かるか、数字で書かれた順番が分かるか、上から順にとれるかなど、手がかりとして提示し理解できるものは何か一人一人の実態を知っておくことが必要です。

このことは、「理解編」の p 7, p12, p23, p24, p 31 を参考にしてください。



このページの  
手順は、「授業  
づくりシート」の  
赤い枠で囲まれた  
欄に記入します。

## 具 体 例

### 手がかりの意味が分かる

できた物を並べるとき、印を付けた上に物を並べることにしました。印の上に置くことを教師と何回か繰り返すことで、児童生徒も印の意味が分かり、それを手がかりにして一人で取り組めるようになりました。

### 手がかりを活用する（悪い例）

活動の流れを個人のスケジュールボードに提示しているのに、教師がスケジュールボードを示し、「次はこれをやるのよ」と声をかけています。これでは、スケジュールボードが手がかりにはならず、教師の声がけが手がかりになってしまっています。

### 手がかりを活用する（良い例）

同じ活動をする場合でも一人一人に分かる手がかりを示すことが大切です。活動の手順を分かる支援の例です。

- ・ Aさんは、文字が読め、スケジュールカードを理解することができます。そこで、活動の順番を示した手順表を使用して作業を進めました。
- ・ Bさんは、数字が分かるので活動の順番を数字と写真で提示しました。
- ・ Cさんは、棚の上から下へ順番にとって作業をすすめることができるので活動の順番にとれるように上から順に棚に教材を入れました。



## 8 個別に必要な教材・教具、補助具を考える

補助具とは、心身機能・身体構造上の理由などから、日常生活で困難を来している動作を、可能な限り自分自身で容易に行えるように補助するために特別に工夫された道具のことです。

児童生徒の活動を充実するためには、教材・教具、補助具により、個別に児童生徒の技能を補うことが大切です。

児童生徒の実態に合わせて活用することで、活動の集中や意欲を高め、充実した取組にすることができます。

この個に応じた教材・教具、補助具は、本人が自分で使いこなせることが大切です。個別に必要な教材・教具、補助具を考えることで、以下のような効果を発揮することが必要です。

- 様々な活動への参加を可能にする。
- 完成度や習熟度を上げる。
- 定着を図る。
- 自信につなげる。
- 意欲をもてます。

### 関連して

教師の支援は、必要最小限にすることが大切です。そこで、普段から児童生徒自身で取り組む習慣や気持ちを育てておくことが大切です。そのような気持ちがあつてこそ、教材・教具、補助具を有効に活用することができます。

このことは、「理解編」の p7, p22, p24, p30 を参考にしてください。

このページの  
手順は、「授業  
づくりシート」の赤  
い枠で囲まれた  
欄に記入します。

### 具 体 例

#### 参加を可能にする

言葉が不明瞭な子が、進行係をしました。言葉を補うためにめくることができる次第を使うことで、不明瞭な言葉を補うことができ、立派に進行係を務めました。

#### 習熟度を上げる

お皿に焼きそばを盛る係をする時、菜箸をトングに変えると、こぼさず早く盛りつけることができるようになりました。その後、係の活動を楽しみながら取り組むようになりました。

#### 自信につながる

木工の作業で切断機にカバーを取り付けたり、ガイドを使用し材料がずれないようにしたりすることで、生徒だけでも安全に使用することができるようになりました。教師が離れて見守ることで、自分の仕事として責任を持ち、取り組むことができました。

#### 喚起する

教師に手を添えられて行っていた色ぬり。すぐに飽きてしまい、見ている日が続きました。しかし、筆の柄を改良して自分で持てるようにし、塗る場所は、はみ出していけないところをテープで覆ったところ、最後までみんなと一緒に活動することができました。

## 9 教師の役割分担をする

領域・教科を合わせた指導では、多くの特別支援学校の場合複数の教師と一緒に授業に取り組みます。そこで、教師の役割分担を適切に効果的にすることが大切になります。

教師の授業での役割は、様々あります。活動内容や児童生徒の実態に応じながら役割分担を行い、それぞれが共通理解して授業を行うことが大切です。そのためにも、どのような目標でどのような支援を行うのかについて、このような役割を基に話し合っておく必要があります。

授業における教師の役割を以下に示します。

- 進行や全体へ指示すること
- 児童生徒の手本になること
- T1のサポートをすること
- 児童生徒一人一人に合わせたへのサポートをすること
- グループ別の指導を担当すること

### 関連して

これまで、教師と常に一緒に活動していたのでは、活動していたとしても、自分の経験として、定着していかないことがあります。常に教師が隣にいることにより、全体の指示を聞こうとする注意が散漫になることもあります。また、常に教師が手を添えることにより、自分でやろうとする意欲が薄らいでしまうことになりかねません。

そこで、教師は、常につきっきりになるのではなく児童生徒が何をしたら良いか、どこに行けばいいか、どんなふうにしたらできるのかを分かるように示し、自立的に取り組むことができるように支援していくことが大切です。自立的に活動することで、自分にとって必要な手がかりを自分で探す習慣にもつながります。このことは、「理解編」の p16, p20, p22, p31 を参考にしてください。

このページの  
手順は、「授業づくりシート」の赤い枠で囲まれた欄に記入します。

## 具体例

### 手本になる

グラウンド整備でのことです。一生懸命砂まきをしている教師の様子を見て、生徒も一緒に一生懸命、砂まきに取り組み始めました。教師の働く姿は、生徒の身近なモデルになります。

### 間を取る

材料が足りなくなったとき、教師が準備してあげたり、一緒に取りに行ったりするよりは、「ここにあるよ」と呼ぶ教師と、「〇〇先生のところに行ってごらん」と活動先へ押し出してあげる教師の連携で、自分で動くことに慣れていきます。そのうち、どこにあるか分かれると先生の声がけがなくても自分で行けるようになっていきます。

### 見守る（待つ）

どうしても活動に付きっきりになりがちな児童生徒がいます。でも、ちょっと距離を取り、全身が見える位置まで離れてみたら、落としたものを自分で拾ったり、ズックを自分で脱ごうと足を一生懸命動かしたりしていました。

少し離れて見ることで、支援内容や方法を見直すことにつながります。

# 授業づくりシート記入例

## 授業づくりシート 1

1 単元名		2 授業の目標		シート1	
サファリパークへ行こう		・動物に親しみ、動物を見たり、えさをあげることができる。 ・マナーを守って公共の施設を利用することができる。			
3 日程計画		4 活動の流れ			
日	活動内容	流れ	活動内容	時間	配置図
7月	校外学習について知る	A	1 おはなし	10	1
8日	動物について知る・約束の確認	B	2 ビデオ	20	
9日			3 約束	10	1
10日			4		
11日			5		
12日			6		
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日	サファリパークへ				
20日					
21日					
22日	事後指導	A			

## 授業づくりシート 2

5 配置図		7 個別に配慮を要する児童生徒		9 教師の役割分担	
		・Bは、活動が単調になるとパニック状態になるのでプリントや写真をその都度T1に取りに行くようにする。 ・Cは、隣の児童を気にするのでT2が間に入って見えないようにする。		T1は、進行、全体への指示 T2は、A、B、Cが指名された時、肩をたたき前に行くよう促す。また、戻る時は、席がわかるようにいすを指す。 T3は、Hが指名された時、肩をたたき前に行くよう促す。また、戻る時は、席がわかるようにいすを指す。 T2: Cのパニック時に対応をする。 Dの移動時の解除をする。	
6 道具の配置について		8 個別に必要な教材・教具・自助具			
朝の会と同じ体型にいすを持って集合する。 一列目の机を下げ、前のスペースを開ける。 児童が自分で自分の机を移動する。		しおりづくり ・D、Gは、手本を見て書き込み ・Fは、作成手順表。書く見本は、1ページごとにT1からもらう。 ・A、B、E、Hは、写真を貼り付ける活動。 プリントには文字と写真が印刷されたものを使用。 マッチングさせて貼る。 ・Cは、プリント			

